

令和5年10月6日
埼玉県連合教育研究会
責任者 浅見 正史
事務局 〒330-0804
さいたま市大宮区堀の内町1-99
さいたま市立大宮東中学校内
印刷 関東図書株式会社



埼玉県連合教育研究会
会長 浅見 正 史

会員の皆様には、日ごろ埼玉県連合教育研究会の諸事業にご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

さて、令和5年6月13日（火）、4年ぶりに参集型による評議員会（総会）を開催することができ、評議員の皆様のご承認を得て、澤田 純一前会長の後任として、伝統と格式のある本会会長という大役をお引き受けすることとなりました浅見 正史（あさみ まさし）と申します。微力ではありますが、本会発展のために全力を尽くしてまいりますので、これまでと変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

埼玉県連合教育研究会
会長 浅見 正史

さて、本年度、本会も昭和39年設立以来59年目を迎え、60周年を迎えようとしています。そのような折、国は、こども家庭庁を新たに設置し、すべてのこどもが、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指し、こども政策を総合的に推進することを目的とする「こども基本法」を施行しました。

この「こども基本法」の中の施策は、六つの基本理念からなっています。その中でも『①すべてのこどもは大切にされ、基本的な人権が守られ、差別されないこと ②すべてのこどもは大事に育てられ、愛され、保護される権利が守られ、平等に教育を受けられること ③年齢や発達の程度により、自分に直接関係することに意見を言えたり、社会のさまざまな活動に参加できたりすること ④すべてのこどもは年齢や発達の程度に応じて、意見が尊重され、こどもにとって最もよいことが優先して考えられること』など、我々教員にとりまして、改めて目の前の児童生徒一人一人の特性を基本にした関わり方や学習の個性化など学習指導の在り方への基本理念を示した法律となっています。

この基本理念をもとに、本年度、教科等研究団体では、児童生徒一人一人の思いや願いを基本にし、生き生きとした学びの姿や、それらを支えられた先生方の研究の成果を共感できます埼玉大会（全国大会2団体（特別活動・特別支援）、関東大会4団体（国語・社会科・美術・学校図書館））が開催されます。是非、多くの会員の皆様のご参加をいただき、児童生徒の成長の証をご確認いただければと思います。

令和5年度 活動方針と重点・努力点

<活動方針>

- 1 未来を切り拓く教育の創造を目指して、着実な教育研究活動を継続し、埼玉県公立小・中学校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校の教育の充実と発展に邁進する。
- 2 学習指導要領と埼玉県及びさいたま市等の教育行政施策を踏まえて、各教育研究団体の特性を生かし、真摯に教育研究活動を推進し、「教育立県・埼玉」の実現に邁進する。
- 3 国や世界の状況を適切にとらえ、持続可能な社会の創り手となる人財の育成を目指して、質の高い教育研究活動を推進し、その実現に邁進する。

<重点・努力点>

- 1 確かな学力の育成を図るため、「主体的・対話的で深い学び」の充実にに向けた「デジタル」と「リアル」の最適な組み合わせによる教育研究活動を一層推進する。
 - 2 豊かな心と健やかな体を育成し、たくましく生きる力を育む教育研究活動を一層推進する。
 - 3 「令和の日本型学校教育」を担う、学び続ける教師の実現に向けた組織的・継続的な教育研究活動を一層推進する。
- ＜※ 部分は、変更点です。＞

《※ 部分は、変更点です。》

また、教職員の働き方改革の推進が喫緊の課題の折、各研究団体では、事務局業務等の負担軽減を図りつつ、各研究主題に向けての自主的・組織的・創造的な研究活動への邁進をお願いいたします。

結びに、埼玉県教育委員会・さいたま市教育委員会並びに公営財団法人日本教育公務員弘済会埼玉支部の皆様には、ご指導、ご支援をいただき心より御礼申し上げます。



ホームページ
QRコード

目次

- | | | | |
|---------------------|---|------------------------|----|
| ・会長あいさつ、活動方針と重点・努力点 | 1 | ・教科等研究団体等の研究主題・研究内容 | 5 |
| ・令和5年度役員・評議員等名簿 | 2 | ・地域教育研究団体の取組 | 9 |
| ・組織・運営図 | 3 | ・事務局だより・研究論文入賞者研究論文の概要 | 13 |
| ・会費・負担金等の流れ | 4 | ・令和6年度研究論文募集要領（案） | 16 |

令和5年度 埼玉県連合教育研究会 役員・評議員等名簿

1. 本部役員等

役 職	氏 名	所 属	役 職	氏 名	所 属
会 長	浅見 正史	さいたま・大宮東中	理事(算数数学)	肥土 耕一	桶川・桶川中
副会長(さいたま)	小林 正美	さいたま・大宮北中	〃(保健体育)	中西 健二	三郷・幸房小
〃 (南部)	井浦 博史	上尾・太平中	〃(課外)	堀川 博基	富士見・西中
〃 (西部)	藤井 文則	富士見・勝瀬小	〃(小家庭科)	小峯由起子	羽生・羽生北小
〃 (北部)	森田 昌孝	熊谷・男沼小	〃(生活総合)	竹森 努	松伏・松伏小
〃 (東部)	鈴木 秀明	越谷・大袋東小	監 事	藤谷 健二	富士見・関沢小
常任理事(さいたま)	飯島 政範	さいたま・栄和小	〃	堀川 大輔	熊谷・籠原小
〃 (南部)	鈴木真由美	川口・慈林小	〃	秋山 弘幸	越谷・桜井南小
〃 (南部)	須賀 達也	草加・松江中	編集委員長	越智 宏明	さいたま・与野西中
〃 (西部入間)	本澤 智巳	所沢・柳瀬小	編集委員	笠原 雅之	埼玉大学・附属小
〃 (西部比企)	荒川 統	嵐山・菅谷小	〃	大塚 悠希	埼玉大学・附属中
〃 (北部秩父)	浅沼 健一	横瀬・横瀬小	〃	石川 和宏	桶川・桶川小
〃 (北部児玉)	田島 司	神川・神泉小	〃	小代美智子	さいたま・道祖土小
〃 (北部大里)	小林 義治	深谷・岡部中	〃	大島 綾子	蕨・南小
〃 (東部北埼玉)	金井さち子	行田・西小	事務局長	渡辺 俊行	さいたま・大宮東中
〃 (東部埼玉葛)	井上 弘江	幸手・長倉小	幹 事	山口祐貴子	さいたま・大宮東中
			〃	井上 弓子	さいたま・大宮東中
			〃	中村 涼穂	さいたま・大宮東中

2. 教科等研究団体

No.	研究団体名	会長名	所 属
1	埼玉県国語教育研究会	田沼 良宣	熊谷・三尻中
2	埼玉県書写教育研究会	堀越 敦	行田・長野中
3	埼玉県社会科教育研究会	増田 正夫	加須・加須小
4	埼玉県算数数学教育研究会	肥土 耕一	桶川・桶川中
5	埼玉県理科教育研究会	吉田 伸吾	北本・東中
6	埼玉県音楽教育連盟	藤川 英子	戸田・美谷本小
7	埼玉県美術教育連盟	森田 豊	深谷・上柴中
8	埼玉県保健体育研究会	中西 健二	三郷・幸房小
9	埼玉県英語教育研究会	加藤 秀樹	北本・石戸小
10	埼玉県道德教育研究会	藤間 隆子	加須・加須西中
11	埼玉県特別活動研究会	梅田 竜平	新座・東北小
12	埼玉県進路指導・キャリア教育研究会	堀川 博基	富士見・西中
13	埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会	西田 真吾	本庄・旭小
14	埼玉県教育心理・教育相談研究会	金井 健治	坂戸・住吉中
15	埼玉県特別支援教育研究会	井上 弘江	幸手・長倉小
16	埼玉県学校図書館協議会	宮崎 正子	三郷・瑞木小
17	埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会	安藤 義仁	蓮田・黒浜小
18	埼玉県小学校家庭科教育研究会	小峯由起子	羽生・羽生北小
19	埼玉県生活科総合的な学習の時間教育研究会	竹森 努	松伏・松伏小

3. 地域教育研究団体

旧事務所	No.	研究団体名	会長名	所 属	旧事務所	No.	研究団体名	会長名	所 属
南 部	1	埼玉大学教育学部附属小学校	石上 城行	埼玉大学・附属小	比 企	30	東松山市教育研究会	澤田 貴雄	東松山・野本小
	2	埼玉大学教育学部附属中学校	関口 睦	埼玉大学・附属中		31	小川班教育研究会※2	須郷 聖子	小川・小川小
	3	さいたま市教育研究会	小林 正美	さいたま・大宮北中		32	菅谷班教育研究会※3	山崎 則枝	滑川・滑川中
	4	川口市教育研究会	鈴木真由美	川口・慈林小		33	玉川班教育研究会※4	本橋友見子	鳩山・鳩山小
	5	草加市教育研究会	須賀 達也	草加・松江中		34	川島教育研究会	鈴木 和也	川島・中山小
	6	蕨市教育研究会	山口 浩	蕨・南小		35	吉見教育研究会	山内 哲也	吉見・西小
	7	戸田市教育研究会	星野 正義	戸田・新曽北小	秩 父	36	秩父教育研究会※5	浅沼 健一	横瀬・横瀬小
	8	志木市教育研究会	本莊 真	志木・志木中	児 玉	37	児玉郡本庄市教育研究会※6	田島 司	神川・神泉小
	9	朝霞市教育研究会	金子 二郎	朝霞・朝霞第一小	大 里	38	熊谷市教育研究会	今村 美己	熊谷・玉井中
	10	新座市教育研究会	梅田 竜平	新座・東北小		39	深谷市教育研究会	小林 義治	深谷・岡部中
	11	和光市教育研究会	船越 一英	和光・北原小		40	寄居町教育研究会	野口 泰明	寄居・折原小
北 部	12	埼玉大学教育学部附属特別支援学校	石川 泰成	埼玉大・附属特別支援	北 埼	41	行田市教育研究会	金井さち子	行田・西小
	13	鴻巣市教育研究会	橋本 浩	鴻巣・鴻巣西中		42	加須市教育研究会	隈元 俊介	加須・大桑小
	14	北本市教育研究会	加藤 秀樹	北本・石戸小		43	羽生市教育研究会	川島 規行	羽生・新郷第一小
	15	上尾市教育研究会	浅沼 正義	上尾・鴨川小	埼 葛	44	春日部市教育研究会	正籬 洋子	春日部・備後小
	16	桶川市教育研究会	家徳 丈夫	桶川・桶川東中		45	越谷市教育研究会	岡本 順	越谷・川柳小
	17	伊奈町教育研究会	寶田恵美子	伊奈・南小		46	久喜市教育研究会	渡邊 匡章	久喜・本町小
入 間	18	川越市教育研究会	新井久美子	川越・牛子小		47	三郷市教育研究会	滝沢 慎	三郷・彦糸中
	19	所沢市教育研究会	本澤 智巳	所沢・柳瀬小		48	蓮田市教育研究会	丸山 典雄	蓮田・蓮田中央小
	20	飯能市教育研究会	野村 浩之	飯能・飯能第一小		49	幸手市教育研究会	富澤 敏夫	幸手・八代小
	21	日高市教育研究会	秋馬 信之	日高・武蔵台小中		50	八潮市教育研究会	檜田 勝巳	八潮・八條小
	22	狭山市教育研究会	紫竹理枝子	狭山・狭山台小		51	杉戸町教育研究会	丸尾 環	杉戸・高野台小
	23	入間市教育研究会	倉根 勝彦	入間・野田中		52	吉川市教育研究会	浦井 智治	吉川・三輪野江小
	24	富士見市教育研究会	本木 千穂	富士見・針ヶ谷小		53	松伏町教育研究会	竹森 努	松伏・松伏小
	25	ふじみ野市教育研究会	抜井由美子	ふじみ野・大井小		54	白岡市教育研究会	坂庭 正浩	白岡・菁莪小
	26	坂戸市教育研究会	白井 健一	坂戸・浅羽野小		55	宮代町教育研究会	谷 義明	宮代・須賀中
	27	鶴ヶ島市教育研究会	竹田 聡	鶴ヶ島・藤中		入間地区連合教育研究会		石井 伸明	川越・霞ヶ関中
	28	越生班教育研究会※1	谷ヶ崎 仁	越生・越生中		埼葛連合教育研究会		井上 弘江	幸手・長倉小
	29	三芳町教育研究会	廣井 賢司	三芳・唐沢小	<令和5年度 学校数 1,215校 会員数 30,598名>				

※1 越生班教育研究会【越生町・毛呂山町】

※2 小川班教育研究会【小川町・東秩父村】

※3 菅谷班教育研究会【滑川町・嵐山町】

※4 玉川班教育研究会【鳩山町・ときがわ町】

※5 秩父教育研究会【秩父市・横瀬町・小鹿野町・皆野町・長瀨町】

※6 児玉郡本庄市教育研究会【本庄市・上里町・美里町・神川町】

埼玉県連合教育研究会 組織・運営図

会員=30,598名の先生方

ホームページ
をご覧ください。
【※スマホ対応】

正副会長会 6名

・会長 1名
・副会長 5名

常任理事・理事会 21名

・会長 1名
・副会長 5名
・常任理事 10名<地域教育研究団体>
・理事 5名<教科等研究団体>

評議員会(総会) 83名

・会長 1名
・副会長 5名(兼評議員1名)
・監事 3名
・常任理事 10名(兼評議員9名)
・理事 5名(兼評議員5名)
・評議員 教科等団体長19名
地域団体長 55名

活動方針作成委員 8名

・会長 1名 ・副会長 2名
・常任理事 3名 ・理事 2名

会員【本年度 30,598名】

・公立小・中学校、義務教育学校、中等
教育学校、特別支援学校
・埼玉大学教育学部附属小・中学校
・埼玉大学教育学部附属特別支援学校
・希望する私立中学校・特別支援学校等
・校長 ・副校長 ・教頭 ・校内教頭
・主幹教諭 ・教諭 ・養護教諭 ・講師

事務局 4名

・事務局長
・幹事名
・会報発行
・研究集録発行
・研究論文募集
審査・表彰
・講演会

会費負担金

講演会補助

論文応募
表彰・資料費

配分金

旅費配当

事務局長等
研究協議会

助成
補助

助成・補助→埼玉県・さいたま市・教育公務員弘済会から

全県 小中学校1,215校

地域教育研究団体55 ※=複数市町村

1 埼玉附属小	30 東松山市
2 埼玉附属中	31 小川班※
3 さいたま市	32 菅谷班※
4 川口市	33 玉川班※
5 草加市	34 川島
6 蕨市	35 吉見
7 戸田市	36 秩父※
8 志木市	37 児玉郡本庄市※
9 朝霞市	38 熊谷市
10 新座市	39 深谷市
11 和光市	40 寄居町
12 埼玉特別支援	41 行田市
13 鴻巣市	42 加須市
14 北本市	43 羽生市
15 上尾市	44 春日部市
16 桶川市	45 越谷市
17 伊奈町	46 久喜市
18 川越市	47 三郷市
19 所沢市	48 蓮田市
20 飯能市	49 幸手市
21 日高市	50 八潮市
22 狭山市	51 杉戸町
23 入間市	52 吉川市
24 富士見市	53 松伏町
25 ふじみ野市	54 白岡市
26 坂戸市	55 宮代町
27 鶴ヶ島市	— 入間地区連合
28 越生班※	— 埼玉連合
29 三芳町	

全国関東
埼玉大会
の開催

全国関東
埼玉大会
への参加

教科等研究団体の全国・関東地区教育研究大会の開催予定(令和5年8月1日現在)

	全国大会(埼玉大会)		関東地区大会(埼玉大会)	
小・中学校別	小学校	中学校	小学校	中学校
令和5年度	⑮特別支援(言語難聴・情緒)	⑪特別活動 ⑮特別支援(言語難聴・情緒)	⑦美術 ⑯学校図書館	①国語 ②社会科 ⑦美術 ⑯学校図書館
令和6年度	⑨英語	⑨英語	⑨英語 ⑯生活・総合	⑨英語 ⑫進路・キャリア ⑯生活・総合
令和7年度	—	—	⑤理科 ⑥音楽	⑥音楽
令和8年度	—	—	⑮特別支援	⑤理科 ⑮特別支援 ⑯中技術家庭科
令和9年度	—	—	⑨英語	⑨英語
令和10年度	—	③社会科	⑬学校視聴覚	⑬学校視聴覚

埼玉県連合教育研究会の各事業は、会員【30,598名】の皆様の会費・負担金及び各種補助金等により運営されています。

会費・負担金等の流れ

会員の皆様

会費の納入

- ・埼玉県教育委員会
- ・さいたま市教育委員会
- ・教育公務員弘済会埼玉支部

助成
補助

市町村（地域）教育研究団体会費・負担金

学級数割負担金

個人会費500円

納入

納入

埼玉県連合教育研究会事務費・公費補助（全予算）

教科等団体へ

- 配分金（活動費）
- 旅費の特別配当

教科等団体へ

令和5年度
埼玉大会
研究大会
追加配分

「研究集録付
研究論文集」
配付【3月】

全小・中学校等

講演会等補助

地域教育
研究団体
（市町班教研）

全会員から

研究論文
・募集
・表彰

全会員へ

「会報」
配付【10月】

No.	教科等研究団体19
①	国語（中） 11/16(木)・17(金)
2	書写
③	社会科（中） 10/27(金)
4	算数数学
5	理科
6	音楽
⑦	美術 11/17(金)
8	保健体育
9	英語
10	道徳
⑪	特別活動 8/7(月)
12	進路指導・キャリア教育
13	学校視聴覚
14	教育心理・教育相談
⑮	特別支援 7/27(木)・28(金)
⑯	学校図書館 8/9(木)・10(木)
17	中学校技術・家庭科
18	小学校家庭科
19	生活科・総合的な学習の時間

No.	埼玉大学教育学部
1	附属小学校 10/17(火)・18(水) 研究協議会
2	附属中学校 5/23(火)・24(水) 研究協議会

※令和5年度の埼玉大会開催団体は、左の6団体です。
○ ○ 全国大会【特別活動・特別支援】
関東大会【国語（中）・社会科（中）・美術・学校図書館】

研究大会・協議会
・研修会等に参加
しましょう。

《会員の皆様の所属》
【地域教育研究団体・教科等研究団体に所属されています。】

本研究会は、59年目を迎えた会員数約3万人を有する埼玉県最大の教育研究団体です。

会員の皆様からの会費は、本研究会の設置の目的である埼玉教育の充実に向け、主に各教科等研究団体の研究のための配分金等に約6割、地域教育研究団体の開催する講演会補助金に約1割、研究論文の研究資料費等を含む本部事務局費等に約3割が充てられています。本年度も、会員の皆様からの会費を大切に、また、費用対効果を考えながら各種事業の運営に努めてまいります。

会員の皆様には、本年度も、自ら進んで研究大会や研究協議会・講演会等に参加したり、研究論文に応募したりしながら、埼玉教育の充実に向け研究と修養に努めていただきたいと思います。

令和5年度

**教科等研究団体及び埼玉大学
教育学部附属小・中学校の
研究主題・研究内容
《21団体》****1. 国語教育**

埼玉県国語教育研究会

1 研究主題

「生活に生きて働く国語の能力の育成を
めざす授業の創造」

2 研究内容

学習指導要領の趣旨を生かし、基礎・基本の定着を図るとともに、興味・関心を生かした多様な言語活動を工夫し、児童生徒の学習意欲を高めるための実践的研究を行う。

また、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育むとともに、言語感覚を豊かにするための実践的研究を行う。

研究主題を具現化するために、言語環境をはじめ教材や教具、学習形態や学習方法、言語活動が豊かに整えられ、一人一人のよさを認め、伸ばしていこうとする国語教室こそ、児童生徒の自ら学ぶ意欲を高めることができるものと考え、これらの実践的研究と様々な事業を行う。

2. 書写教育

埼玉県書写教育研究会

1 研究主題

「書字文化を育む書写教育」

2 研究内容

日常に資する技術向上研修と実践的研究を行う。

- (1) 研究発表会・講演会（5月 研究成果の発表）
- (2) 実技研修会（8月 教職員の指導技術向上）
- (3) 授業研究会（11月 授業力向上）
- (4) 硬筆展・書きぞめ展の開催（6月・1月）
※ 両展とも規模を一部縮小して開催予定
- (5) 『研究集録』の発行（3月 研究成果の紙上発表）

3. 社会科教育

埼玉県社会科教育研究会

1 研究主題

- (小)「社会がわかり、社会にかかわる子供を育てる社会科学学習」
- (中)「追究する力を育てる社会科学学習」
- 小・中学校それぞれの研究主題に向け、社会科教育の今日的課題と本質的課題に対し、これまでの研

究成果を生かして研究・実践を行っている。

2 研究内容

- (1) 小・中学校地域学習研修会
- (2) 小・中学校ブロック別授業研究会
- (3) 中学校基礎学力調査 問作・分析委員会
過年度までの研究を継続して深めていくために、上記の行事を実施し、研究とその成果を広めていく。
また、本年度開催予定の「第41回関東ブロック中学校社会科教育研究大会久喜大会」及び令和10年度に開催予定の「全国中学校社会科教育研究大会」に向けての研究を小・中学校で協働して進めている。

4. 算数・数学教育

埼玉県算数数学教育研究会

1 研究主題

「学ば楽しさを味わう算数数学の学習をめざして」

2 研究内容

学習指導要領の趣旨を踏まえ、教材研究を深め、指導内容の系統を明らかにし、数学的活動を重視した学習指導を展開する。

そのため、児童生徒の学習意欲を喚起し、数理的な処理のよさや数学的な見方・考え方のよさに気付かせ、算数・数学を活用できるよう学習過程や指導の工夫に努め、指導と評価の一体化を図る。

本年度は、コロナ禍で培ったオンライン対応のノウハウを活用しつつ、各種授業研究会や研究発表大会を対面やハイブリッド形式でも実施する。

5. 理科教育

埼玉県理科教育研究会

1 研究主題

「自然を主体的・科学的に探究する
資質・能力の育成」

2 研究内容

児童生徒が理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行い、根拠に基づく結論を導き出す過程を通して、自然の事物・現象を主体的・科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する学習指導の研究及び実践を行っている。

また、育てたい子ども像を設定したり、日々の実践から課題を見いだしたりすることを授業改善の出発点としている。

- (1) 「探求の過程」や「問題解決の過程」を重視した学習の充実
- (2) 「指導と評価の一体化」のための学習評価
- (3) ICTの効果的な活用

6. 音楽教育

埼玉県音楽教育連盟

1 研究主題

「子供が主語となる授業の実現を目指して
～個別最適な学びと協働的な学びの

一体的な充実による授業改善～」

2 研究内容

児童生徒が、音楽的な見方・考え方を働かせながら、主体的に音楽に関わり、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を養い、実感を伴って理解することが重要である。

以下のとおり、研究の視点を示す。

- (1) 児童生徒が主語となる音楽科の学びの実現
- (2) 学びのファシリテーターとしての教師の役割
- (3) ツールとしてのICTの利活用と音楽環境の整備
- (4) 多様性の理解、実体験の重視、他教科との連携を取り入れた柔軟なカリキュラム・マネジメント

7. 図画工作・美術教育

埼玉県美術教育連盟

1 研究主題

「きらめく感性 つくりだす喜び
～未来をひらく授業づくり 「深い」学びの探求～」

2 研究内容

- (1) 受け止めよう 子どもの心
- (2) 育てよう 確かな力
- (3) 深めよう 生き生き授業

3 今後に向けて

第62回関東甲信越静地区造形教育研究大会、第54回埼玉県造形教育研究大会を、令和5年11月17日(金)川口市にて開催する。

「造形教育の新天地! ワイワイ埼玉 Artlearnitis」を大会テーマとし、実行委員会を中心に準備を進めている。

8. 保健体育教育

埼玉県保健体育研究会

1 研究主題

(小)「運動の特性や魅力に応じた楽しさや
喜びを味わうとともに、資質・能力を
バランスよく身に付ける授業の工夫」
「健康・安全に関する内容を実践的に

理解する保健学習の工夫」

(中)「生徒一人一人を確実に伸ばす保健体育指導の実践」

2 研究内容

- (小)「器械運動系」「体づくり運動系」「保健」
- (中)「器械運動の特性に応じた効果的な

学習指導の工夫」

「体づくり運動の特性に応じた効果的な

学習指導の工夫」

「生涯を通じて心身の健康を保持増進するための
資質・能力を育てる保健教育の工夫」

9. 英語科教育

埼玉県英語教育研究会

1 研究主題

「21世紀を逞しく生き抜く人材の育成を

目指した英語教育

～コミュニケーションを大切にする児童生徒の育成～」

2 研究内容

各地区の代表の教員による英語の授業実践や学習指導等の研究発表、それらに対する活発な意見交換を通して、教員の資質・能力の育成及び主題についての研究を深めたい。

また、日頃の学習指導の成果発表の場として、中学生を対象とした英語弁論大会を開催し、指導教員及び生徒の意識の高揚を図りたい。

10. 道徳教育

埼玉県道徳教育研究会

1 研究主題

「人としての生き方について考えを深め、

よりよく生きる児童生徒を育てる道徳教育の創造
～学習指導要領が求める道徳教育の実践を通して～」

2 研究内容

- (1) 8月「夏季研修会」: 理論研修や教材吟味等を行い、授業実践、指導方法改善について協議を行う。

また、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の堀田 竜次 氏の講演会を実施し、理論と実践の研究を深める。

- (2) 11月「埼玉県道徳教育研究大会・朝霞大会」: 朝霞市立朝霞第五中学校を会場に、公開授業及び埼玉県道徳教育研究推進モデル校事業の研究発表を行う。

また、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の井上 結香子 氏の講演会を開催し、授業実践と理論の両面から研鑽を深める。

11. 特別活動

埼玉県特別活動研究会

1 研究主題

「多様な他者と協働する力を育む特別活動」

2 研究内容

特別活動で育成を目指す資質・能力を「多様な他者と協働する力」ととらえ、協働する力を育むための手立てや方法等について昨年度に引き続き研究を深める。

研究の内容は、①多様な他者と協働する力を育むための指導計画、②多様な他者と協働する力を育むための指

導と評価の方法の2点を中心とし、研究を進めていく。

また、①専門委員研究協議会(年3回)、②定期総会・講演会、③夏季研究協議会(全日本中学校特別活動研究会埼玉大会も兼ねて開催)、④研究集録発刊、⑤会報「特活」発刊(年3回)、などを通して、県内の特別活動の充実、発展を目指す。

12. 進路指導・キャリア教育

埼玉県進路指導・キャリア教育研究会

1 研究主題

「未来を見据え、主体的に生き抜く力を育てる
キャリア教育の推進 ～小中一貫を円滑に
進めるための協働的な取組を通して～」

2 研究内容

25地区進路指導・キャリア教育研究協議会について、昨年度は、県内全24地区で実施することができた。

本年度も各校の実態により、リモートの活用、授業公開の実施、自校独自のリーフレット等の作成、本会作成の「研究紀要」での発表等により研究を進める。

特に、「小中一貫のキャリア教育」「キャリア・パスポートの活用」「進路指導選択の多様化に向けて(通信・フリースクール等への進学)」等について研究を進める。

13. 学校視聴覚教育

埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会

《埼玉県学校視聴覚教育連盟》

1 研究主題

「主体的に活動する力を育む教育メディアの活用を目指して ～楽しく学ぶ、進んで学ぶ、互いに学ぶ～」

2 研究内容

教育メディアを積極的に活用した学習を研究・展開し、児童生徒に自ら学ぶ力と主体的に問題を解決する力を身に付けさせ、生きる力を育成することを目的に活動を進めている。

本年度は、コロナ禍での経験を生かし、研究主題について、より効果的・効率的に他団体との連携や情報共有を行いながら研究を進めていく。

《埼玉県放送教育研究会》

1 研究主題

「共に学び、考え、次の時代を創る埼玉の放送教育
～ひろがる つながる 深まる
みんなと幸せになる～」

2 研究内容

日々の授業や研究活動を充実させ、放送活用を推進し、授業研究会・メディア研・放送コンテスト等を通して授業研究等の成果を広く発表していく。

《埼玉県教育機器研究会》

※本年度休会

14. 教育心理・教育相談

埼玉県教育心理・教育相談研究会

1 研究主題

「通常の学級における発達障害児童生徒等の指導支援
～社会性を育むスキル教育の実践と定着～」

2 研究内容

- (1) 通常の学級等において、発達障害を有する児童生徒をどう理解し、指導支援していくか、先行事例に学び、研究を深め、実践事例等を広める。
- (2) 社会性を育むスキル教育の実践と定着を図るため、各地区の事例や情報に基づいた研究を進める。
- (3) 定例の理事会・専門委員会において、教育心理・教育相談の課題等について研究協議を行う。

15. 特別支援教育

埼玉県特別支援教育研究会

1 研究主題

「幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを踏まえ、自立と社会参加につながる指導・支援の充実を求めて」

2 研究内容

- (1) 幼児児童生徒一人一人の障害の状態及び発達の段階や特性等に応じた効果的な指導の在り方を追究する。
- (2) 発達障害のある幼児児童生徒をはじめ、学習や生活に特別な支援を必要とする子に対する指導の在り方を追究する。
- (3) 新しい時代の特別支援教育の諸課題に応じた教育について研究し、本県特別支援教育の実践を進展させるとともに、オンラインでの会議・研究協議会等も取り入れ、現代の働き方の中での合理的な研究会の在り方を創造する。

16. 学校図書館教育

埼玉県学校図書館協議会

1 研究主題

「豊かな心と確かな学びを育む学校図書館の創造
～主体的・対話的で深い学びを支える
学校図書館教育～」

2 研究内容

- (1) 研究
学習指導要領の趣旨に基づき、学校図書館に関する管理運営・利用指導・読書指導・地域連携を中心に、学校・家庭・地域(公立図書館等・図書ボランティア等)との連携を図り、学校の教育課程の展開に寄与する学校図書館を目指し研究を推進する。
- (2) 事業
・集会 理事会、
第37回関東地区学校図書館研究大会

8月9日(水)・10日(木) ウェスタ川越

- ・協議 第1～2回研究協議会、
- ・研究 学校図書館授業研究会
(さいたま市立与野本町小学校)
- ・表彰 読書感想文・読書感想画コンクール審査、表彰
- ・刊行 埼玉SLA会報93・94号、
感想文・感想画集『真珠』
- ・広報 夏休み・冬休みの推薦図書案内

(3) 調査

埼玉県学校図書館協議会沿革史CD-ROM化
(組織・総会資料・真珠、研究紀要等)

17. 技術・家庭科教育

埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会

1 研究主題

「未来社会を切り拓くための資質・能力を
育成する学習指導の研究」

2 研究内容

本研究会では、これまでの実践をもとに、学習指導要領が示す資質の効果的な指導や評価に関する研究を継続している。

令和8年に実施予定の「関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会埼玉大会」の実施に向けて、専門委員会を核として、支部ごとに分担した発表内容ごとに、指導計画、授業実践、評価法等の検討と検証を行う。

検討及び検証をもとに、2月の教員研究発表会において、県内全体で情報を共有するとともに、国立教育政策研究所の指導者からの指導助言をいただいて、研究の方向や内容の確認と改善を図る。

18. 小学校家庭科教育

埼玉県小学校家庭科教育研究会

1 研究主題

「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育
～学びをつなぎ、家庭生活をよりよくしようと
工夫し実践する児童の育成～」

2 研究内容

- (1) 久喜市立栗橋南小学校において、第54回埼玉県小学校家庭科教育研究協議会を開催
- (2) 夏季研修会において講演会を実施
(講師：埼玉県総合教育センター指導主事
大山 方住 氏)
- (3) 埼玉県児童生徒発明創意くふう展の開催
- (4) 研究紀要の編集と発行

19. 生活科・総合的な学習の時間教育

埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会

1 研究主題

「児童の気付きや概念的理解を質的に高める指導の工夫」

2 研究内容

生活科における気付きの質の高まり、総合的な学習の時間における概念形成について、考え方を整理する。

具体的な実践例を基に、気付きの質の高まりや概念的理解の高まりについて考察するとともに、児童生徒が変容したきっかけについて分析をし、教師の適切な支援についても整理したい。

生活科、総合的な学習の時間の授業場면을類型化して、それぞれの場面で求められる気付きの質と概念的理解の高まりや、その評価についても整理し、児童生徒の気付きや概念的理解を質的に高めるための指導方法について研究を進める。

20. 埼玉大学教育学部附属小学校

埼玉大学教育学部附属小学校

1 研究主題

「漸進する学び」(1年次)

2 研究内容

- (1) 第91回小学校教育研究協議会
令和5年10月17日(火)・18日(水)に予定している。
研究の1年次として、各教科、健康教育の授業公開、提案を行う。
- (2) 校内授業研究会
個人の研究主題を基に、学校及び教科の研究主題を踏まえ、授業を通して理論の検証を試み、全員で研究協議(質疑・グループ協議等)を行う。

21. 埼玉大学教育学部附属中学校

埼玉大学教育学部附属中学校

1 研究主題

「挑戦心を育む『令和の日本型学校教育』の実現
～挑戦心を高め、思考を深める
協働的な学びのデザイン～」

2 研究内容

副題を、～挑戦心を高め、思考を深める協働的な学びのデザイン～とし、「困難に向き合い、試行錯誤するなどの挑戦する学びの場面の設計」と「生徒自らの「挑戦心」の意識化」、「教師や仲間との協働的な学びの充実」を研究の手立てとして、実践研究を行った。

各授業等において、挑戦心が表れている具体的な生徒の姿を設定し、その姿が表出するように工夫を行った。

- (1) 挑戦心を引き出す課題設定の工夫についての継続研究
- (2) 学びの過程を自覚する機会を意図的に設ける工夫
- (3) 挑戦心を後押しする適切なフィードバックの工夫
- (4) 協働的に学ぶ場面を意図的に組み入れる工夫

令和5年度

地域教育研究団体の 取組 《15団体／55団体》

1. 戸田市教育研究会

会長 星 野 正 義

本市研究会は、小学校12校、中学校6校に在籍する587名の会員によって組織されている。

1 本研究会の目的

本研究会では、日頃の教育活動の充実を図るとともに、教職員の資質・指導力の向上及び教育課題を解決することを目的としている。

2 主な事業

(1) 教科等研究部会

新学習指導要領に基づく教育を遂行し、児童生徒の生きる力を具体化するために、EdTechやアクティブ・ラーニンググループワークを積極的に活用した主体的・対話的で深い学びを充実させる。

(2) 各教科等研究部会の活動

- ① 授業研究会 ② 資質向上研修会
- ③ 実技研修会 ④ 児童生徒作品展覧会
- ⑤ 児童生徒科学展覧会 ⑥ 小学校音楽鑑賞会
- ⑦ 小中学校音楽会 ⑧ 発明創意くふう展
- ⑨ 講演会
- ⑩ その他本会の目的達成に必要な行事

2. 和光市教育研究会

会長 船 越 一 英

本会は、和光市立小学校9校、中学校3校に在籍する教職員約300名を会員とする組織であり、19の研究部により構成されている。

1 本研究会の目的

「子どもから出発して、子どもに還る教育研究」を理念としており、子どもたちの授業や学習環境づくりに生きる研究活動に努めている。

2 主な事業

新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえ、本年度よりオンライン会議システムの有料アカウント契約を行った。会員間での研究活動の他、市内学校の授業や行事等にも活用することが期待される。

- (1) 定期総会
- (2) 教育講演会

演題 「学校教育現場でのいくつかの法的問題」

講師 番町法律事務所

弁護士 菊地 幸夫 氏

- (3) 各研究部会、現地研修会
- (4) 一斉授業研究会
- (5) 研究紀要の作成

3. 上尾市教育研究会

会長 浅 沼 正 義

本会は、上尾市立小学校22校、中学校11校に在籍する895名の教職員を会員として組織され、23の部会によって構成されている。

1 本研究会の目的

この会は、会員相互の研修により資質の向上を図り、市内小・中学校の教育の充実に資することを目的としている。

2 主な事業

- (1) 定期総会（書面議決） 5月
- (2) 運営委員・研究部長合同会議 4回
5月、10月、1月、2月
- (3) 各研究部の活動
各研究部がテーマを設定し、①研究協議会、
②授業研究会、③実技研修会、④現地視察研修、
⑤各種展覧会 等を実施する。
- (4) 研究紀要の作成

4. 川越市教育研究会

会長 新 井 久 美 子

本研究会は、川越市内小学校32校、中学校22校、特別支援学校1校の教職員、約1,450名で構成されている研究団体である。本年度で73年目を迎えた。

1 本研究会の目的

教育の振興と職能の向上を図ること

2 主な事業

- (1) 本研究会の活動
- (2) 本部役員研修会（年6回）
- (3) 4月 一斉主任会
- (4) 5月 評議員会（オンラインで開催）
- (5) 8月 教育講演会（ウェスタ川越で開催）
演題 「『忙しいのは当たり前、児童生徒のためなら仕方ない』を見つめなおす
～働き方を見つめなおす理由と方法～」
講師 一般社団法人ライフ＆ワーク代表理事

教育研究家

妹尾 昌俊 氏

(6) 研究協議会

(7) 3月「会報」発行

※ GIGAスクール構想の理念を基に、本研究会では
会議、調査、資料配付等においてデジタル技術の活
用を促進した効果的な取組を行っている。

5. 坂戸市教育研究会

会長 臼 井 健 一

本会は、坂戸市立小学校13校、中学校7校の460名
を会員として組織し、28の部会で構成している。

1 本研究会の目的

会員の職能を向上し、教育の振興を図る。

2 主な事業

新型コロナウイルス感染症対策の経験を踏まえて、
新しい教育研究会の在り方を会員全体で考えながら実
施する。

- (1) 教科領域等一斉主任研修会
- (2) 教育研究会総会
- (3) 坂戸市一斉授業研究会
- (4) 理事研修会
- (5) 部長研修会
- (6) 各部の研究活動

各部会で研究テーマを設定し、計画に沿って活動
を展開している。

6. 三芳町教育研究会

会長 廣 井 賢 司

本会は、三芳町の小学校5校、中学校3校に在籍す
る169名の教職員を会員として組織され、29の教科領
域等の部会で組織されている。

1 本研究会の目的

本研究会は、三芳町立学校教職員の自主的・組織的
な研究活動を推進し、教職員の資質向上及び教育振興
を図ることを目的としている。

2 主な事業

- (1) 一斉主任会 4月19日(水)
- (2) 新旧理事会 4月25日(火)
- (3) 定期総会 5月12日(金)
- (4) 会員の研究活動(研究部ごとに計画)
- (5) 教育講演会 8月22日(火) 三芳町文化会館
- (6) 各研究部の活動
主任会、授業研究会、研究発表会、実技研究会等

7. 小川班教育研究会

会長 須 郷 聖 子

本会は、小川町立小学校5校、中学校3校、東秩父
村小・中学校各1校に在籍する174名を会員として組
織され、33の部会によって構成されている。

1 本研究会の目的

本会は、小川町・東秩父村小・中学校教育の進展を
図ることを目的とする。

2 主な事業

- (1) 一斉主任会
- (2) 理事研究協議会
- (3) 総会(書面開催)
- (4) 教育講演会(アーカイブ開催)

本部 小川町立小川小学校

演題 「コロナ禍と社会の変化による子どもの育
ちの変化 ～“未熟な子どもの増加”に対
してどうすればよいか～」

講師 嵐山学園 理事兼施設長 早川 洋 氏

- (5) 理事部長研究協議会
- (6) 各教科領域研究部事業

8. 菅谷班教育研究会

会長 山 崎 則 枝

本会は、嵐山町立小学校3校、中学校2校及び滑川
町立小学校3校、中学校1校の計9校の教職員209名
を会員として28の研究部で組織されている。

1 本研究会の目的

班内の教職員が主体となって、職能の向上、教育の
振興を図り、地域社会の文化発展に貢献することを目
的としている。

2 主な事業

感染症拡大防止を踏まえ、可能な限りオンライン会
議・部会の開催を推奨している。また、感染状況や対
策の情報共有を密にし、多様な形での研究を推進して
いる。

- (1) 理事研修会 4月6日(木)・2月22日(木)
- (2) 主任研修会・新旧理事会兼総会
4月11日(火)

※各校で書面決議後、理事のみの縮小総会を開催
※主任研修会については、実施を要する部会のみ

- (3) 各研究部の活動
 - ①授業研究会 ②実技研修会
 - ③硬筆・書きぞめ展
- (4) 各研究部主催による展覧会等
 - ①図工・美術展 ②科学展・研究発表会
 - ③小・中学校音楽会 ④読書感想文審査会

⑤発明創意くふう展 ⑥特別支援学級交流学習会

①授業研究会 ②実技研修会 ③美術展

④音楽会 等を運営

(6)「研究集録」の作成

9. 秩父教育研究会

会長 浅 沼 健 一

本研究会は、秩父地区の小学校23校、中学校12校の会員数626名、28の研究部で組織されている。

1 本研究会の目的

本会は、本会教職員の資質の向上を図り、地域教育の振興に寄与することを目的とする。

2 主な事業

(1) 理事研修会

第1回 令和5年7月7日(金)

第2回 令和6年3月7日(木)

(2) 総会 5月2日(火)

代議員による組織づくり・事業計画作成

(3) 各研究部の活動

5月～令和6年2月

各研究部主体による研修会・授業研究会を実施

(4) 教育講演会

8月9日(水)

講師 元さいたま市教育委員会

教育長 桐 淵 博 氏

演題 「子どもたちのいのちを守るために」

～A S U K Aモデルと小学校からの救命教育の推進～

11. 深谷市教育研究会

会長 小 林 義 治

本会は、深谷市立小学校19校、中学校10校の教職員687名を会員として27の研究部で組織されている。

1 本研究会の基本方針

本会は学校教育各般の研究を行い、深谷市教育の振興を図ることを目的としている。

2 主な事業

(1) 教育研究会総会 5月23日(火)

(2) 各研究会・主任会

各部会、原則年度内3回の開催として主任会を行う。

Teamsを活用した主任会でもよい。

その他、①小学校親善運動会、②小中学校音楽会、

③各種作品展、④特別支援学級合同学習会 等を予定している。

(3) 教育講演会

期日 8月18日(金)

会場 深谷市花園文化会館 アドニス

演題 「レジリエンスを高める授業実践をめざして

～学校でできる不適応・不登校の予防～」

講師 立教大学現代心理学部

学部長 大石 幸二 氏

(4) 研究紀要の発行

10. 児玉郡本庄市教育研究会

会長 田 島 司

本研究会は、本庄市、上里町、美里町、神川町の1市3町の小学校24校、中学校8校に在籍する教職員712名の教職員で組織され、30の教科領域等の研究会で構成されている。

1 本研究会の目的

本会は、児玉郡本庄市内における教育研究会の活動をとおして、児玉郡本庄市の小・中学校の教育振興を図ることを目的としている。

2 主な事業

(1) 組織づくり 4月13日(木)・14日(金)

(2) 理事研修会及び総会 5月12日(金)

(3) 部長会議 7月7日(金)

(4) 教育講演会 7月27日(木)

演題 「子どもたちの命を守るために」

講師 元さいたま市教育委員会

教育長 桐 淵 博 氏

(5) 各研究会の活動

12. 行田市教育研究会

会長 金 井 さ ち 子

本会は、行田市立小学校12校、中学校8校の教職員395名を会員として、28研究部で構成されている。

1 本研究会の目的

行田市内小・中学校の各種教育研究活動を促進するとともに、相互の連絡を緊密にし、行田市教育の振興を図ることを目的としている。

2 主な事業

(1) 行田市教育研究会理事研究会 4月6日(木)

(2) 教科領域等主任研究会 4月13(木)・14日(金)

→ 部ごとに、①参集型 ②オンライン型

③書面開催型での形態で実施

(3) 行田市教育研修大会 7月21日(金)

→ 市内6グループに分け、オンラインでの研修

- ・CBTに向けた操作の演習
- ・「ICTを活用した授業改善について」協議
- ・情報モラルの指導(9年間を見通した指導)
- (4) 各研究部による研修会
- (5) 各研究部主催による展覧会 等

13. 久喜市教育研究会

会長 渡 邊 匡 章

本会は、久喜市立小学校21校、中学校10校に在籍する教職員約720名を会員とし、28の研究部で組織されている。

1 本研究会の目的

久喜市立小・中学校教職員の職能向上と教育の振興を図ることを目的としている。

2 主な事業

- (1) 会員研究協議会 4月13日(木) オンライン
- (2) 理事・部長会 4月20日(木) オンライン
- (3) 定期総会 5月12日(金) 電子表決
- (4) 主な主催事業
 - ①陸上競技大会 ②硬筆展 ③発明創意くふう展
 - ④英語弁論大会 ⑤科学展 ⑥音楽会 ⑦美術展
 - ⑧書きぞめ展 等
- (5) 各教科等事業
 - ①研究協議会 ②授業研究会 ③実技研修会 等
- (6) 各研究部の授業研究会、研究協議会
- (7) 研究紀要「新久喜の教育」の作成

コロナ禍でこれまで制限されてきた教育活動のうち、真に必要なものを回復させ、新しい学びの在り方へと進化をめざしている。

14. 幸手市教育研究会

会長 富 澤 敏 夫

本会は、幸手市立小学校9校、中学校3校、計12校の教職員255名を会員として、27研究部の組織から成る。

1 本研究会の目的

本会は、市内小・中学校職員の連携を密にするとともに、会員相互の研究活動を盛んにし、市教育の振興を図ることを目的とする。

2 主な事業

- (1) 全員研究協議会 (教育講演会)
 - 8月31日(木) 幸手市北公民館
 - 演題 「新学習指導要領と新しい授業研究の関係論 ～教職の専門性の世界的潮流を踏まえて～」

講師 麻布教育研究所

シニアフェロー 永島 孝嗣 氏

- (2) 市内文化財巡り
 - 7月27日(木) 浄誓寺「将門の首塚」等
- (3) 市教育委員会・市教育研究会委嘱研究発表会
- (4) 各研究部の活動
 - ①授業研究会 ②研究協議会 ③実技研修会
 - ④硬筆・書きぞめ審査会 ⑤科学展審査会
 - ⑥音楽発表会 ⑦読書感想文審査会
 - ⑧手をつなぐ子どもらの交歓会

(特別支援教育) 等

※ アフターコロナを踏まえ、可能な限り、コロナ禍前の活動に戻しているが、コロナ禍の中で見出すことのできた新しい価値(活動スタイル・活動の精選等)も大切にしながら取り組んでいる。

15. 杉戸町教育研究会

会長 丸 尾 環

本研究会は、小学校6校、中学校3校の教職員208名を会員として組織されている教育研究団体である。

1 本研究会の目的

本研究会は、関係機関、団体との緊密な連携のもとに、会員相互の連携を深め、教職員の資質の向上と人間性豊かな児童生徒の育成に努め、杉戸町教育の充実を図ることを目的としている。

2 主な事業

- (1) 総 会 5月9日(火)
- (2) 常任理事会 6月、12月、2月
- (3) 理事・部長会 4月、7月、3月
- (4) 講演会 5月9日(火)

演題 「『忙しいのは当たり前、児童生徒のためなら仕方ない』を見つめなおす

～働き方を見つめなおす理由と方法～」

講師 一般社団法人ライフ&ワーク代表理事

教育研究家 妹尾 昌俊 氏

- (5) 各部・教科等研究部の活動
 - ①研究集録作成 ②研究委嘱 ③授業研究会及び研究協議会 ④美術展、⑤書きぞめ展 等の開催



事務局だより

令和5年度本部事業計画

令和5年

- 4月3日(月) 各教育研究団体の役員名簿提出依頼
 5月9日(火) 令和4年度本部会計監査会
 6月13日(火) 評議員会
 全体研究協議会
 令和4年度教育研究論文入賞者表彰式
 記念講演会
 講師 埼玉大学教育学部附属
 教育実践総合センター
 元教授 櫻井 康博 氏
 7月12日(水) 教科等研究団体事務局長等研究協議会
 【オンライン開催】
 7月14日(金) 『会報(第76号)』原稿執筆依頼
 7月18日(火) 第2回正副会長会
 9月8日(金) 研究論文応募締め切り
 10月6日(金) 『会報(第76号)』発行・会員へ配付
 12月6日(水) 編集委員会
 12月8日(金) 『研究集録付研究論文集』原稿執筆依頼

令和6年

- 1月12日(金) 「活動方針と重点・努力点」検討依頼
 ～31日(水) (担当副会長・常任理事・理事)
 2月14日(水) 第3回正副会長会
 2月27日(火) 教育研究団体活動報告書提出
 (日本教育公務員弘済会埼玉支部)
 3月6日(水) 教科等教育研究団体会計監査会
 ～8日(金) (実績報告書・事業計画案検収)
 3月14日(木) 『研究集録付研究論文集』発行・配付
 3月22日(金) 教育研究団体活動報告書提出
 (埼玉県教育委員会)

被表彰

令和5年度「身体障害者福祉のための第65回埼玉県児童生徒美術展覧会」において、埼玉県連合教育研究会会長賞を、次の児童生徒さんが受賞されました。

おめでとうございます。

- 坂戸市立坂戸小学校 第5学年
 清水 煌雅 さん

作品名 『空にうかぶおかしすぎる町』

- 戸田市立戸田東中学校 第1学年
 牧野 律 さん

作品名 『夜道の明かり』

令和5年度全国・関東地区教育研究大会後援

- ◆ 全国教育研究発表大会後援 【2団体】
 ・埼玉県特別活動研究会(中学校)
 ・埼玉県特別支援教育研究会
 ◆ 関東地区教育研究発表大会後援 【4団体】
 ・埼玉県国語教育研究会(中学校)
 ・埼玉県社会科教育研究会(中学校)
 ・埼玉県美術教育連盟
 ・埼玉県学校図書館協議会

令和6年度全国・関東地区教育研究大会後援予定

- ◆ 全国教育研究発表大会後援 【1団体】
 ・埼玉県英語教育研究会
 ◆ 関東地区教育研究発表大会後援 【2団体】
 ・埼玉県進路指導・キャリア教育研究会
 ・埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会

『研究集録付研究論文集』原稿執筆研究団体

本会は、毎年、年度末の3月に、『研究集録付研究論文集』を発行し、県内全小・中学校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校へ配付しています。

原稿執筆については、教科等研究団体及び地域教育研究団体並びに研究論文入賞者等に原稿執筆のご協力をお願いしています。教科等研究団体には毎年、地域教育研究団体には4年に1度の原稿執筆をお願いしています。

なお、旧教育事務所の秩父地区、児玉地区、大里地区、北埼玉地区には、市町村の合併により、変則的に原稿の執筆を依頼しています。令和5年度は、下記の15地域教育研究団体に原稿執筆をお願いいたします。

会員の皆様には、所属の研究団体はもちろんですが、他の研究団体の研究及び活動内容等についても是非、ご覧いただき、各研究団体の今後の事業の充実を図っていただければと思います。

【本会ホームページでもご覧いただけます。】

- | | |
|------------|--------------|
| ①蕨市教育研究会 | ⑨秩父教育研究会 |
| ②朝霞市教育研究会 | ⑩児玉郡本庄市教育研究会 |
| ③鴻巣市教育研究会 | ⑪熊谷教育研究会 |
| ④北本市教育研究会 | ⑫加須市教育研究会 |
| ⑤狭山市教育研究会 | ⑬越谷市教育研究会 |
| ⑥入間市教育研究会 | ⑭三郷市教育研究会 |
| ⑦鶴ヶ島市教育研究会 | ⑮蓮田市教育研究会 |
| ⑧吉見教育研究会 | |

※12月8日(金)に、原稿執筆依頼文書を発送予定です。
 執筆へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和4年度研究論文入賞者 研究論文の概要

● 研究主題

『「SOSの出し方に関する教育」の実践
～児童・保護者を対象とした「自殺予防教育」の研究～』【学級活動】
上尾市立東小学校 教諭 大久保 裕和

1 研究の概要

本研究は、自殺予防教育の一環を担う「SOSの出し方に関する教育」を児童及び保護者を対象に実践したものである。児童対象の学習は、学級活動に位置付け、

- (1) 自分が危機に直面した時に、他者に助けを求め
ることのできる力の育成

(2) 友達の危機に気付いた時に、傾聴し心配してい
ることを伝え、大人につなげる力の育成
- をねらいとした。

また、児童の自殺の原因・動機の調査結果から、対象を児童のみならず、動画配信及び地域学校保健委員会にて、保護者も含め実践した。

2 研究の成果と課題

アンケート調査の結果から、「悩みごとを抱えたら、誰かに相談する。」「一人でいる友達を見かけたら自分から声をかける。」と回答した児童が増えた。また、相談できなかった児童が親や教師に相談し、教師と保護者が共に問題解決を図ることのできた事例も見られた。

保護者においては、「悩みを抱えた時、誰に相談するか。」の問いに対し、「相談機関」を選んだ（複数回答可）保護者が増えた。

一方、「情報漏洩の心配」や「アドバイス等をされる抵抗感」を抱く意見があったため、相談機関の支援方法について理解できる取組が今後の課題である。

● 研究主題

『小学校外国語の「話すこと（発表）」における「思考・判断・表現」の評価に関する研究
～比較可能性に基づいたより信頼性の高いルーブリックの開発を目指して～』【外国語科】
さいたま市立下落合小学校 教諭 有江 聖

1 研究の概要

小学校外国語科における評価は喫緊の課題である。先行研究や筆者の教員対象アンケートの結果から、小学校教員は、特に「話すこと」の「思考・判断・表現」の評価に強い不安を感じていると示唆を得た。

本研究は、以上を踏まえ、上記に向けたより信頼性の高いルーブリックの開発を目的としている。

対象は、4年生でG・S科の3単元を通じて行った。

実践の流れは、①担任、筆者による単元指導計画の確認、②ルーブリックの検討及び改善、③学習指導、④評価、⑤信頼性分析とした。検証のために、4年担任、ALT、筆者（6年担任）による採点一致度を判断基準に用いた。

今回は、各段階を記述した「3段階ルーブリック」と

A評価のみを記述した「採点指針ルーブリック」をプレゼン評価に使用し、信頼性の比較分析を行った。

2 研究の成果と課題

研究成果として、採点指針ルーブリックに高い採点一致度が見られた。さらに、評価項目ごとにチェック欄を設けた採点指針ルーブリックを開発した結果、全てのクラスでより安定した高い一致度が算出された。

課題として、基準の表記方法や評価者トレーニング、「やり取り」に適したルーブリックの開発が挙げられた。

今後は、さらなる信頼性と妥当性の検証に向け、児童とルーブリックを作成・共有し、研究の深化を図っていく。

● 研究主題

『小学校第3学年における投能力向上の実践 ～「走・跳の運動」領域に横断的に
取り入れたヴォータックスフットボールの有効性の検討～』【体育科】
吉川市立三輪野江小学校 教諭 楠 聖次郎

1 研究の概要

本研究では、新学習指導要領の走・跳の運動領域の中で「児童の実態に応じて投の運動を加えて指導することができる」と明記されたことを踏まえ、「走・跳の運動」領域内にヴォータックスフットボールを横断的に取り入れ、小学校第3学年児童の投能力に対してどのような影響を与えるのかを検証した実践的事例研究である。

単元前後におけるボール投げの飛距離や投動作類型（吉田1983）、投動作の習熟度（高本2003）、投動作と飛距離の相関関係を比較した。

2 研究の成果と課題

飛距離と投動作類型、投動作における各局面の習熟度

で男女ともに技能の向上が認められた。特に、各局面における習熟度では、男子では、7局面全てで有意差が認められ、女子では、5局面で有意差が認められた。また、飛距離と各局面の習熟度においては、「投げ手腕」と「体幹回転」に強い相関が認められた。

さらに、今回の研究では、特に飛距離の記録が低位な児童に対して非常に効果的であった。教具の工夫により、主体的に運動に取り組むことができる環境が整い、投げる機会が確保されたことで大きな効果が得られたと推察できる。

今後は、全学年に対象を広げることや、低位の児童の実態に即した実践を考えることに重点を置いて、指導を継続的にやっていく。

令和4年度研究論文入賞者 研究論文の概要

● 研究主題

『運動好きを育て、学習機会の保障と協働的な学びを実現する
～カリキュラム開発と評価基準表（ルーブリック）の作成～』【体育科】
越谷市立越ヶ谷小学校 教諭 寺川 耕平

1 研究の概要

相互に教え合うことが求められる体育科において、一人一人の学びを充実させるには、子供同士の関係をよりよいものとし、学び合いを成立させなければならないと考える。

そこで、本研究では、ボール運動領域における児童の学習機会の保障や社会性を高めるカリキュラム開発、教師の指導と評価が図られるボール運動領域の評価基準表を作成し、その効果の検証をした。特に、協同学習モデルを用いた社会的スキルの育成を学習内容の中心とした。

また、運動が苦手な児童にも楽しめるよう、メインゲームにおける場づくりやルールを工夫し、学習機会の保障

を目指した。

2 研究の成果と課題

子供同士の関わりに対しての意図的な指導は、社会性を高め、自己や仲間の関わりに関する力の高まりを実感させることができた。振り返りの時間に毎時間、ペアで意図的に褒め合う活動を実施した効果が大きい。

ゲームパフォーマンス分析の結果から、技能下位児が単元終期には、技能上位児との差が小さくなった。また、技能発揮の試行数の保障や技能の向上がみられた。

他方で、単元時数の確保は、本研究及び先行研究から1単元10時間程度が示唆的である。内容の精選、年間指導計画を見直し、適切な時数を確保していくことが課題である。

● 研究主題

『「書く意欲」と「書く技能」を高める指導法の研究
～意見文の授業実践を通して～』【国語科】
熊谷市立新堀小学校 教諭 小川 祐太郎

1 研究の概要

本校の児童は、学力調査の「書くこと」に関する問題の正答率が低い。また、学級で実施した意識調査では、9割以上の児童が「書くこと」について「嫌い」と回答した。以上の実態から、本研究では、国語科の授業改善によって、児童の書く意欲と技能の向上を目指した。

授業づくりでは、意欲と技能に関する柱に加え、国語科における「深い学び」の実現を重視し、方策を立てた。「深い学び」のために取り入れた視点は次の三点である。

- (1)「言葉による見方・考え方」を働かせること
- (2)習得・活用・探究の学習過程を明確にすること
- (3)知識の構造化を図ること

そして、第5学年の意見文の学習で授業実践を行った。

2 研究の成果と課題

授業実践後の意識調査では、6割の児童が「書くこと」について「好き」と回答した。方策のなかで、書きたいことを見付ける時間の確保が特に有効であった。

また、学級のすべての児童が、事実と意見とを区別し、自分の考えが伝わるように意見文の書き表し方を工夫することができた。

習得・活用・探究の学習過程に基づき、繰り返し文章を書いたことで、児童の書く技能が向上した。

今後は、知識の構造化の仕組みをより具体化していく。

『 指 導 講 評 』

編集委員長 越智 宏明 【さいたま市立与野西中学校長】

本年度は、18編の研究論文が県内各地より寄せられました。全て個人による研究論文で、教員経験年数も3年目の方から47年目（10年目以下の方が8名、20年目以下の方が8名、21年目以上の方が2名）の方まで幅広い世代の方から、それぞれの世代だからこそ感じられる現代教育への課題と実践について拝読し、深く敬服した次第です。

現在、我々教員を取り巻く環境は、大きな転換期に差し掛かっており、今回お寄せいただいた研究論文はどれも、そうした現在の教育事情を踏まえ、自校の課題と照らし合わせながら、児童生徒に何が必要かを具体的なデータを基に分析された貴重な提案ばかりでした。

特に、入賞された研究論文に共通した高い評価として、

- (1)今日的な課題を踏まえた、より具体的な理論・実践・考察が述べられていること
 - (2)仮説、検証、提案が明確で、筋の通った研究であること
 - (3)エビデンスとしてのデータがよくとれていて、確かな根拠に基づいた分析をしていること
- などが挙げられます。

入賞されました研究論文は、本会ホームページに掲載されておりますので、県内各会員の皆様の明日からの実践にお役立ていただければ幸いです。

令和6年度 研究論文募集要領 (案)

埼玉県連合教育研究会

研究論文を下記の要領で募集いたします。何とぞ奮ってご応募ください。

記

1 目的

日々の教育実践の中から生まれた研究を会員の皆様から募集し、これを広く発表することによって本県教育の振興に資する。

2 募集内容

教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動、進路指導・キャリア教育、視聴覚教育、教育心理・教育相談、特別支援教育、学校図書館教育等の児童生徒に直接かわる実践的教育研究として、どのように計画し、仮説を立て実践し、さらに、その結果をどのように評価し、今後の教育実践にどう発展させるか等の研究であることとします。

3 応募資格等

応募者は、県内の公立小・中学校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校に勤務する教員（会員）であり、研究論文は、個人及びグループの研究（学校としての研究も含む）であることとします。

4 応募規程

原稿の書式は、A4判縦長・横書き、横24字×縦46行×2段組で、パソコン入力（Word）により、4～6枚以内（写真、図表を含む）とし、文体は常体（「である」体）を原則とします。

また、研究論文には「表紙」を付け、その上に「応募票」を添付してください。

「表紙」には、①題名 ②勤務校 ③職名 ④氏名（グループ等代表者名）を記入してください。

5 応募票

「応募票」は、ホームページの各種提出書類の「研究論文応募票」からダウンロードしてください。

「応募票」の電子データを希望される方は、下記電話・E-mailにて事務局までお申し出ください。

「応募票」は、「個人研究」・「グループ研究」・「学校研究」別に「表紙」に添付してください。

6 応募上の留意点

- (1) 応募は、1人・1グループ・1学校1編とします。
- (2) 研究論文は、誌上未発表のものに限ります。
- (3) 「応募票」の『確約事項』の順守をお願いします。
- (4) 応募原稿は、返却しませんので、あらかじめご了承ください。

7 原稿等の提出

令和6年9月6日（金） 必着 【令和5年度は9月8日（金）に締め切りました。】

「応募票」及び論文原稿等の提出については、下記事務局へ電子メールでの送付も併せてお願いします。

8 審査結果

審査結果は、令和6年12月中旬に各応募者に書面にて通知します。

9 表彰等

最優秀賞・入選・佳作等に選ばれた研究論文は、令和6年度『研究集録付研究論文集』及びホームページへの掲載を行い、入賞者には、本会評議員会（総会）後の入賞者表彰式にて表彰を行います。

なお、研究資料費として入選論文には7万円（最優秀賞は10万円）、佳作論文には5万円、選外の応募者にも薄謝を進呈します。

また、教職経験10年未満の方を対象に新人奨励賞（3万円）を設けています。

10 審査員

本部役員及び編集委員

11 応募先・問い合わせ先

〒330-0804 さいたま市大宮区堀の内町1-99 さいたま市立大宮東中学校内

埼玉県連合教育研究会事務局

TEL 048-641-0808

FAX 048-645-1922

E-mail saitamakenrengoukyouiku@jcom.home.ne.jp

ホームページURL <https://sairenkyou.jp/>

令和6年度研究論文応募票

令和6年度研究論文応募票
【個人研究用】

姓 名	フリガナ	職 名	フリガナ
勤務校	フリガナ	年 齢	フリガナ
研究テーマ	研究の目的・意義		
研究の概要	研究の進捗状況		
研究の成果	研究の今後の展望		

令和6年度研究論文応募票
【グループ研究・学校研究用】

姓 名	フリガナ	職 名	フリガナ	年 齢	フリガナ
勤務校	フリガナ	研究テーマ	研究の目的・意義		
研究の概要	研究の進捗状況				
研究の成果	研究の今後の展望				



ホームページ
QRコード